

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471903094	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 レオパレス21		
事業所名	あずみ苑津久井浜		
所在地	(〒239-0843) 神奈川県横須賀市津久井1-16-57		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年9月19日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年11月16日	評価機関 評価決定日	平成28年12月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所は、京浜急行津久井浜駅から徒歩で13分ほどの横須賀市と三浦市の市境にある。海岸線が近く、近隣には幼稚園や新しい住宅やマンションが目立つ。すぐ裏手には京急線が走り、坂の上の畑からは富士山が望める。法人は賃貸住宅関係の大手で、介護関係事業も全国展開している。この事業所は開設からは11年を経ている。 【理念に基づく支援】 開設当時からある理念を今も大切に掲げている。自宅にいた時と同じように自由に「ゆったりと過ごせる」よう、できる限り希望をかなえたいと考えている。また「地域との連携」を大切にしており、幼稚園児や中学校の生徒の受け入れを積極的に行っている。地元町内会とも防災会議参加を契機に、懸案であった運営推進会議への出席を承諾してくれるようになった。理念は職員に浸透しており、職員の離職が少ない。 【家族との連携】 家族との連携を大切に考え、居室担当者から利用者の様子を手書きの「おたより」にして毎月送っている。地域の利を生かし、いちご狩りや近隣へのお花見、事業所内の敬老会やクリスマス、三浦海岸の花火見物などのイベントに家族を招待している。 【みんなで作る介護計画】 介護計画に基づいたサービスの実施状況を毎日記録し、モニタリングとして「おたより」で毎月家族にも周知している。職員カンファレンスで意見を聞き、介護計画の目標を設定している。個別に段階的に設定された目標は、職員に浸透し職員や利用者のモチベーションを高める効果につながっている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】利用者様の散歩したい等の希望を叶える為、出来るだけ散歩やドライブに行くようにしている。精神安定を図る為に1:1で対応する時間を作っている。在宅クリニック医師の月2回の往診と訪問看護ステーションの看護師の週1回の訪問を受け、しっかり健康管理を行っている。敬老会には民謡ボランティアさん、クリスマス会には近隣の園児が来苑して下さり、毎年恒例となっており大変喜ばれている。

事業所名	あずみ苑 津久井浜
ユニット名	れんげ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりとゆったりと」を理念にしている。個性を大切に生活して頂ける様に支援している。	開設当初職員が作った理念を談話室や事務所に掲示し、今も大切にしている。勤続年数の長い職員が多いので自然に支援につながられている。法人の理念や方針などは申し送りの際に唱和している。事業所の理念は利用者家族にも浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭りの際には神輿が来てくれている。花の水やりや清掃時には近所の方と挨拶をしている。行事の際は民謡やフルート演奏、幼稚園児の来訪がある。その他に2つの中学校の福祉体験学習を受け入れて地域との交流を図っている。	町内会に加入し、草刈りなどの行事や防災訓練に参加している。夏祭りには神輿が立ち寄り、クリスマスには幼稚園児が訪れたりしている。近隣の中学2校の体験学習を受け入れている。ネイルや民謡、楽器演奏のボランティアが訪れる。地域に対し認知症サポーター養成講座を実施し多数の民生委員の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも機会があれば活かしていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており事業報告をしている。民生委員の方や班長さんにも参加して頂いた。利用者様家族や医療機関等の話も聞きサービス向上に活かしている。	奇数月に年6回開催している。利用者家族や市職員、民生委員のほか、長年の懸案であった地域包括支援センター職員、町内会の班長が出席してくれるようになった。11月には町内会長の出席が予定されている。主に事業報告やイベントの話をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市に定期的に電話等で空き状況を報告し、分からない事がある時は相談している。又、集団指導には必ず出席している。	市の窓口には区分変更や更新申請に行っている。事業についての不明点がある際には、指導監査課に電話をかけた後窓口まで出向いたりしている。保健所の感染症研修に職員を派遣した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自社研修が年1度、委員会は月1度行い、身体拘束について学習している。言葉の拘束は特に注意している。玄関の施錠は夜間帯のみ。各階ドアにベルがあり帰宅願望のある利用者が出て行かれた時にはすぐに状況を把握し、無理に戻っていただくか落ちつかれるまで付き添うことが出来ている。	事業所内に「身体拘束廃止委員会」がある。年に1度、法人でも身体拘束の研修を行い、事業内でも伝達研修を行っている。言葉の拘束については個別にカンファレンスなどで利用者への言葉使いについて検討している。玄関、ユニット間は鈴をつけているが開錠しており、出ていこうとする利用者には付き添って外出するなど配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修で知識を深めている。日常生活の中で言葉の暴力等無いよう職員全体で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、苑においても成年後見人制度について学ぶ機会を持ち活用している。必要に応じてご家族へも制度の活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時には十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き意見や要望を運営に反映させている。受付には意見箱の設置も行っている。面会時に意見を頂く事もある。	行事と運営推進会議を同日に行うなど、利用者家族の参加の機会を確保し、交流を図っている。毎月部屋担当が個別の「お便り」を作成し送付している。レクリエーションに関しての意見をもらうことが多い。面会時などにも意見を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議がありフロア会議での報告や意見を聞き反映している。それ以外では個人面談や業務時間内で意見交換をすることもある。	毎週会議が行われている。職員はそれぞれ4つの委員会で課題や問題を提起し、それを基にフロア会議、全体会議を行う。第5週がある月は研修を行っている。職員は提案があれば、その場で管理者に話し、管理者はなるべく職員で話し合っって実行するよう指導している。風通しもよく、それぞれの委員会が機能しており職員は意見が取り上げられていると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を認めてくれていると思う。労働時間の管理もしっかり出来ている。コンプライアンスマニュアルの読み合せや研修に参加し、労務管理をしっかり行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時事業者独自の介護基礎研修、年1度の自社研修にも参加している。定期的にパソコンでの勉強も実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設職員との交流や情報交換をすることによってサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り、本人の希望や要望に耳を傾けている。不安要素がないか様子を観察し、あれば取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要な場合も相談の上、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやっていただき、職員も一緒にやることで介護する人、される人の関係にならない様に関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族が来苑しやすいよう又関係が続くよう支援している。一時帰宅や墓参り等の外出も家族と協力している。	知人友人の来訪が少なくなる中、家族との関係継続に力を入れている。いちご狩りや敬老会などのイベントには必ず家族を招待している。初詣は近隣の諏訪神社に行っている。三浦海岸の花火は毎年行事として取り入れている。職員は近隣海岸へのドライブや地元の花見など、懐かしい場所を訪ねるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来る様テーブルの配置など工夫している。互いに認知症の理解は難しく職員も一緒に関わる事で利用者同士の関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても時々面会し、見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や居室内で2人きりの時に話したり、利用者同士の会話から本人の希望を把握し職員で共有し対応している。利用者家族に協力してもらう事もある。	入所前に自宅でアセスメントを実施し自宅にいた時と同じような生活が継続できるよう支援している。入所後は居室や入浴時のマンツーマンの時に思いを聞いて、カンファレンスで情報を共有している。困難な場合は生活歴や表情からくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談の際にこれまでの生活歴など把握に努めている、又入居後も本人やご家族の会話や行動などから把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い申し送りして現状の把握に努めている。状態の変化を見逃さない様注意し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の会話の中で家族とは面会時や電話にて話し合っている。カンファレンスを行い意見を反映し作成し毎月モニタリングを行い家族に書類を送付している。介護計画の内容は職員全員が把握しケアに反映するよう努めている。	毎月の「おたより」に長期目標、短期目標を記載し、支援の状態やモニタリングを報告している。面会時に家族からの意見を聞いている。6か月ごとに評価を行い、新たな計画書を作成している。医療面は往診時に話を聞き計画に加えている。職員は目標に基づいた支援の実施を毎日記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや出来る事を記入するようにし情報を共有しながら見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療の取り入れを行っている。受診等は家族対応になっているが、状況に応じて職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し安全に暮らしを楽しめるよう支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の在宅クリニックの定期往診を実施している。その他精神科や歯科の往診もある。基本的に職員が間に入っているが必要に応じて担当医と家族で話をして頂き適切な医療を受けられるように支援している。	2つの訪問医療機関（内科）からかかりつけの医師を選択できる。従前からのかかりつけ医を継続して利用する場合は家族対応での受診となるが、現在は全員がいずれかの訪問医（内科）の往診を受けている。皮膚科の往診は月1回ある。専門医の受診に家族が対応できない時は職員が対応することもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職員はいない為、往診時や電話で相談している。新たに医療連携で訪問看護師に相談できるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにて情報提供を行い、入院中は連絡を取り協力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には急変時におけるの確認書にて意見を伺っている。苑での看取りを希望された場合は家族、担当医と話し合い支援している。	入居前に重度化した場合の対応の指針を説明している。医師がターミナルと判断した際には医師から家族に説明し、その後の対応について同意書を受け取っている。職員は看取りの研修を行い、実際に看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず冷静に対応出来るように勉強会等を通して備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施を行っている。消防署より水消火器を使用した訓練や津波を想定した避難訓練も行った。地域の方にも参加して頂き協力関係ができる様に努めていきたい。地域の防災訓練に利用者と参加することが出来た。	年に2度訓練を行っている。5月には昼間の火災を想定し、消防署が立会いの下、水消火器などを使って訓練を行った。11月に夜間想定消防訓練を行う予定である。備蓄は食料やコンロなどをリストで管理している。海に近く、津波などの被害が予想されるため、地域の防災会議に職員が出席し、情報を交換している。	災害時等の避難計画作成や、近隣の方の協力を得るための働きかけを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて声掛けを行っている。個人情報の管理も研修を受け、鍵をかけて管理し外部へ持ち出さない、出しっ放しにしない等徹底している。書類を破棄する場合もシュレッダーを必ず利用している。	法人のコンプライアンスの研修に職員が参加し、伝達研修を行った。また職員はE-ラーニングテストを行いトレーニングしている。接遇の研修DVDを使用し、伝達研修している。個人情報の記載がある書類は鍵のかかる書庫を新たに購入し、保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定ができるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂いている。食事も本人の希望に出来る限りそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう衣類を選んだりする支援している。毎日の洗顔、整髪、髭剃り等は自己でやっていただき必要に応じて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器の後片付けを一緒に行っている。配膳や下膳はコップだけやって頂くなど無理の無いように心がけている。会話をしながら一緒に食事することで在宅での雰囲気や大事にしている。	献立作成と食材配達は業者に依頼している。調理は職員が行っている。職員が同じテーブルで同じ食事をとり、家での食事風景を再現するよう支援している。毎月、季節の物や刺身などを行事食として提供し、利用者に喜ばれている。外食には近くのレストランを利用している。寿司の出前を取ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態で提供し、水分量や食事量を表に記入し把握している。食器や箸は共用だが状態に応じて食器などを利用者の使いやすいものに変える等の支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での歯磨きを促し出来ない部分を支援している。歯周病の方などは歯科医の往診も取り入れケアしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し早めに声掛けを行う等の支援をしている。	トイレは各ユニットに3か所あり、うち1つは車いす対応ができる広さがある。タブレット管理でチェック表を付け、定時に誘導している。あからさまな声掛けは避け、プライバシーに配慮しながら早めの誘導を行い失敗を少なくする努力をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調節や乳製品を摂取していただく。毎日のラジオ体操や散歩等で身体を動かしていただき便秘予防に努めている。便秘の方はトイレ誘導時腹部マッサージを行ったり、医師に相談し、薬を服用していただいている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、それ以外に希望された場合にも利用して頂ける様にしている。入浴拒否の方には声掛けやタイミングを工夫したり、同性介助希望の方にも対応している。特に入浴日は決めていない為、入浴チェック表で入浴していただいているかを把握している。	週に2回を基本としているが、入浴を望まない方には次の日に改めて声掛けすることもある。夕方に入りたい利用者もおり、できるだけ希望に沿うよう支援している。長湯が好きな方はぬるめにしたたり、温度も好みに合わせるよう支援している。しょうぶ湯やゆず湯などを行事に合わせて行うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休んでいる。室温や布団調整などを行い安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬などは複数で確認し誤薬の無いように努めている。利用者の傷病や薬の効果・副作用を把握するようにしている。処方に変更があった時等は特に変化がないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人での時間を楽しんでいる時は見守りを行っている。レク等を行い皆で楽しめる機会も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの海や畑へ散歩の支援を行っている。歩行が難しい方は車椅子にて散歩に行く事もある。外出イベントではいちご狩りや外食等を企画し、家族にも一緒に参加していただいている。	重度の方が増え坂道は登れなくなったが、天気のいい日は車いすでも散歩に出かけている。例年いちご狩りは家族と共に参加ができ利用者の楽しみとなっている。城ヶ島のドライブや季節の花見など、季節ごとにイベントを実施し外出支援を行っている。日常では日光浴や玄関での花の水やりをしてもらうなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者については買い物に行き支払い等をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族に電話をすることがある。家族や友人からの手紙には返信できる様に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、貼り絵や工作等を飾り季節を感じて頂ける様工夫している。	季節を感じられるように旬の花を飾っている。居間には大きな窓があり明るい。テーブルの配置などに気を配り暮らしやすい工夫をしている。清掃や環境に気を付けており、11年目に入るが建物は清潔感があふれている。トイレの掃除は、1日2回行い、掃除後、確認印を押す等、衛生に注意している。廊下にはパズルや手芸の作品が飾られ落ち着いた雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を工夫している。居間の座席だけでなく、玄関に長椅子、テレビの前にはソファを置き好きな場所で過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していた物を持って来て頂き家の様に過ごせるよう工夫している。	エアコン、カーテン、照明器具、クローゼットが備え付けられている。利用者はテレビ、ベッド、テーブル、いすやソファ、仏壇やタンスなどを持参している。室内は整頓され、ぬいぐるみや家族の写真、賞状などを思い思いに飾り、居心地よいよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア移動時はエレベーターが使用できるが、自立歩行が出来る方には一緒に階段を使用して頂いている。フロア内は段差がないが入浴時やベランダへ出る時などは見守り・声掛けを行い安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

事業所名	あずみ苑 津久井浜
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62			

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりとゆったりと」を理念にしている。個性を大切に生活して頂ける様に支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭り際には神輿が来てくれている。花の水やりや清掃時には近所の方と挨拶をしている。行事の際は民謡やフルート演奏、幼稚園児の来訪がある。近隣の作業所で商品を購入し顔見知りになっている。その他に2つの中学校の福祉体験学習を受け入れて地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも機会があれば活かしていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており事業報告をしている。民生委員の方町内の方にも参加して頂いている。利用者様家族や医療機関等の話も聞きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市に定期的に電話等で空き状況を報告している。又、横須賀市グループホーム合同研修にも参加しており連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自社研修が年1度、委員会は月1度行い身体拘束について学習している。言葉の拘束は特に注意している。玄関の施錠は夜間帯のみ。各階ドアにベルがあり帰宅願望のある利用者様が出て行かれた時にはすぐに状況を把握し、無理に戻っていただくまで付き添うことが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修で知識を深めている。日常生活の中で言葉の暴力等無いよう職員全体で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し苑においても成年後見人制度について学ぶ機会を持ち活用している。必要に応じてご家族へも制度の活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時には十分な説明を行い理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き意見や要望を運営に反映させている。受付には意見箱の設置も行っている。面会時に意見を頂く事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議がありフロア会議での報告や意見を聞き反映している。それ以外では個人面談や業務時間内で意見交換をすることもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を認めてくれていると思う。 労働時間の管理もしっかり出来ている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時事業者独自の介護基礎研修、年1度の自社研修にも参加している。定期的にパソコンでの勉強も実施されている。又勉強会を通しスキルアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設職員との交流や情報交換をすることによってサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り、本人の希望や要望に耳を傾けている。不安要素がないか様子観察し、あれば取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要な場合も相談の上支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやっていただいたり職員も一緒にやることで介護する人される人の関係にならない様に関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族が来苑しやすいよう又関係が続くよう支援している。一時帰宅や墓参り等の外出も家族と協力し行っている。又ご家族に対してのケアも怠らず実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来る様テーブルの配置など工夫している。互いに認知症の理解は難しく職員も一緒に関わる事で利用者同士の関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても時々面会をし見守っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や居室内で2人きりの時に話しをしている、利用者同士の会話から本人の希望を把握し職員で共有し対応している。利用者家族に協力してもらう事もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談の際にこれまでの生活歴など把握に努めている、又入居後も本人やご家族の会話や行動などから把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い申し送りで現状の把握に努めている。状態の変化を見逃さない様注意し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の会話の中で家族とは面会時や電話にて話し合っている。カンファレンスを行い意見を反映し作成し毎月モニタリングを行い家族に書類を送付している。介護計画の内容は職員全員が把握しケアに反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや出来る事を記入するようにし情報を共有しながら見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療の取り入れを行っている。受診等は家族対応になっているが、状況に応じて職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し安全に暮らしを楽しめるよう支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の在宅クリニックの定期往診を実施している。その他精神科や歯科の往診もある。基本的に職員が間に入っているが必要に応じて担当医と家族で話をして頂き適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職員はいない為往診時や電話で相談している。新たに医療連携で訪問看護師に相談できるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにて情報提供を行い、入院中は連絡を取り協力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には急変時におけるの確認書にて意見を伺っている。苑での看取りを希望された場合は家族、担当医と話し合い支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず冷静に対応出来るように勉強会等を通して備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施を行っている。消防署より水消火器を使用した訓練や津波を想定した避難訓練も行った。地域の方にも参加して頂き協力関係ができる様に努めていきたい。地域の防災訓練に利用者と参加することが出来た。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて声掛けを行っている。個人情報の管理も研修を受け、鍵をかけて管理し外部へ持ち出さない、出しっ放しにしない等徹底している。書類を破棄する場合もシュレッダーを必ず利用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定できるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂いている食事もある本人の希望に出来る限り沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう衣類を選んだり支援している。毎日の洗顔、整髪、髭剃り等は自己でやっていただき必要に応じて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器の後片付けを一緒に行っている。配膳や下膳はコップだけやって頂くなど無理の無いように心がけている。会話をしながら一緒に食事をする事で在宅での雰囲気を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態で提供し水分量や食事量を表に記入し把握している。食器や箸は共用だが状態に応じて食器などを利用者の使いやすいものに変える等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での歯磨きを促し出来ない部分を支援している。歯周病の方などは歯科医の往診も取り入れケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し早めに声掛けを行う等の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調節や乳製品を摂取していただく。毎日のラジオ体操や散歩等で身体を動かしていただき便秘予防に努めている。便秘の方はトイレ誘導時腹部マッサージを行ったり、医師に相談し薬を服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、それ以外に希望された場合にも利用して頂ける様にしている。入浴拒否の方には声掛けやタイミングを工夫したり、同性介助希望の方にも対応している。特に入浴日は決めていない為入浴チェック表で入浴していただけているかを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休んでいただいている。室温や布団調整などを行い安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬などは複数で確認し誤薬の無いように努めている。利用者の傷病や薬の効果・副作用を把握するようにしている。処方に変更があった時等は特に変化がないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人での時間を楽しんでいる時は見守りを行っている。レク等を行い皆で楽しめる機会も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの海や畑へ散歩の支援を行っている。歩行が難しい方は車椅子にて散歩に行く事もある。外出イベントではいちご狩りや外食等を企画し、家族にも一緒に参加していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者については買い物に行き支払い等をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族に電話をすることがある。家族や友人からの手紙には返信できる様に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り、貼り絵や工作等で季節を感じて頂ける様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を工夫している。居間の座席だけでなく、玄関に長椅子、テレビの前にはソファを置き好きな場所で過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していた物を持って来て頂き家の様に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア移動時はエレベーターが使用できるが、自立歩行が出来る方には一緒に階段を使用して頂いている。フロア内は段差がないが入浴時やベランダへ出る時などは見守り・声掛けを行い安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 あずみ苑 津久井浜

作成日 平成28年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時等の近隣の方の協力を得る為の働きかけが不足している。	防災訓練等に近隣の方に参加して頂き、協力体制を築く。	町内会の有識者の方に運営推進会議に出席して頂き、参加をお願いする。	6ヶ月
2	49	入居者様の状態等で外出イベントが1個企画通りに実施出来なかった。	外出イベントが企画通りに実施出来、ご家族様にも多く参加して頂ける。	ご家族様の意見を参考にし、入居者様の体調も考え実施できる内容のイベントを企画する。	1年
3	4	運営推進会議のご家族様の参加が少なくなっている。	ご家族様の参加の機会を確保し、意見交換し交流を図る。ご家族様の参加が増える。	お便りにも予定を記入しお知らせするが、電話でも参加をお願いする。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。